

久留米市地場企業景況調査レポート(平成23年4月～6月期調査分)

<調査目的>

久留米市内地場企業の景況及び経営動向を把握し、今後の経営改善普及事業に資するとともに、これらの情報の集計結果を事業所へ提供し、経営の参考にしていただくために調査する。

<調査対象>

当所会員事業所を対象とし、建設業・製造業・卸売業・小売業・サービス業それぞれ120社ずつ、計600社を任意抽出して実施。

<調査要領>

四半期ごとに調査用紙を郵送し、前年同月比や来期の予測について回答を求める。調査の集計は日商中小企業景況調査の集計方法に基づいた景気判断指数(DI値)で行う。

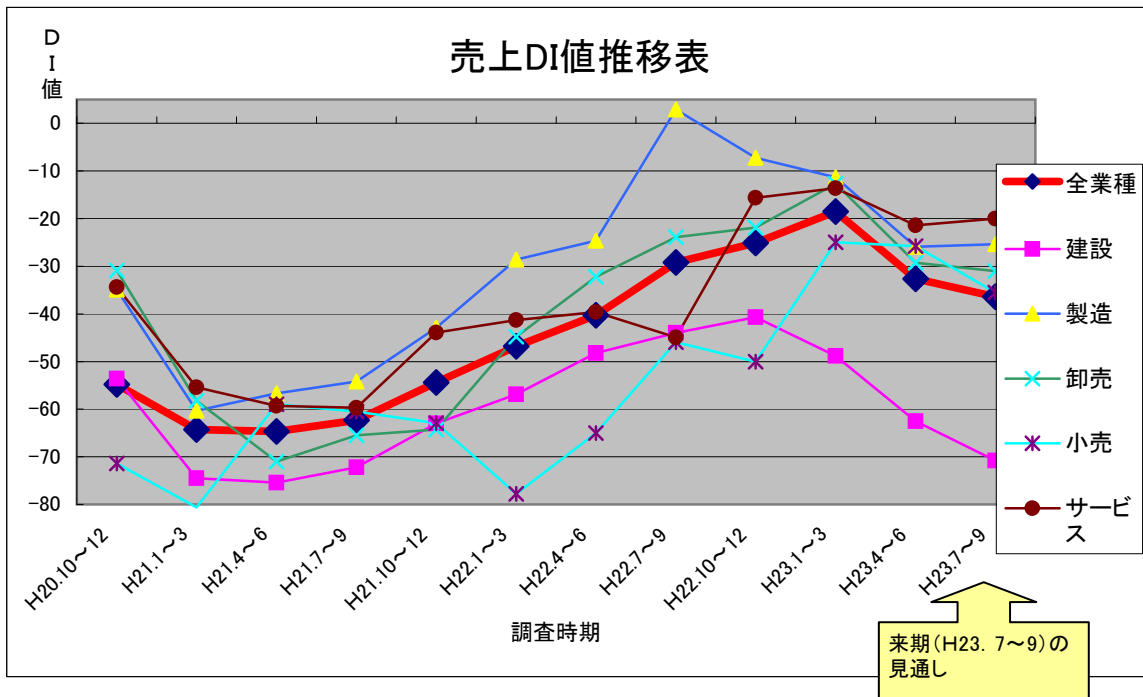
<DI値とは>

DI(ディーアイ。Diffusion Index: 景気動向指数の略)値は、売上・採算・業況などの各項目についての、ヒアリング対象の判断の状況を表す数値。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答(「増加」や「好転」など)の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答(「減少」や「悪化」など)が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景況感の相対的な広がりの意味する。

※DI=(増加・好転などの回答割合)－(減少・悪化などの回答割合)

<平成23年4月～6月期調査分回収結果>

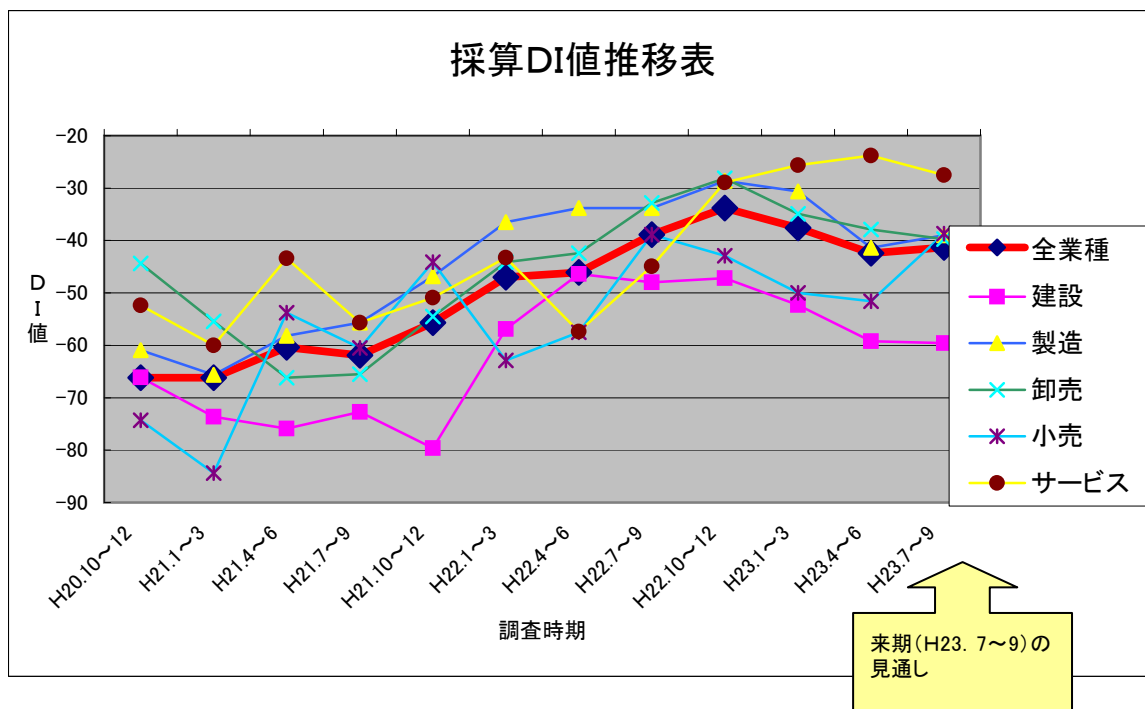
業種	対象事業所数	回答数	回答率
全業種	600	240	40.0%
建設業	120	49	40.8%
製造業	120	60	50.0%
卸売業	120	58	48.3%
小売業	120	31	25.8%
サービス業	120	42	35.0%



今期(H23. 4~6)の久留米市地場企業景況調査で「**売上面**」での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「増加した」と回答した企業は50社(前期比20社減)、「減少した」と回答した企業は127社(前期比9社増)、「横ばいである」と答えた企業は59社(前期比12社減)であった。DI値を見ると、マイナス幅は八期ぶりに拡大して▲32.6となり、前期比で14.1P悪化した。

業種別に見ると、建設業▲62.5(前期比13.7P悪化)、製造業▲25.9(前期比14.6P悪化)、卸売業▲29.3(前期比16.6P悪化)、小売業▲25.8(前期比0.8P悪化)、サービス業▲21.4(前期比7.8P悪化)となった。

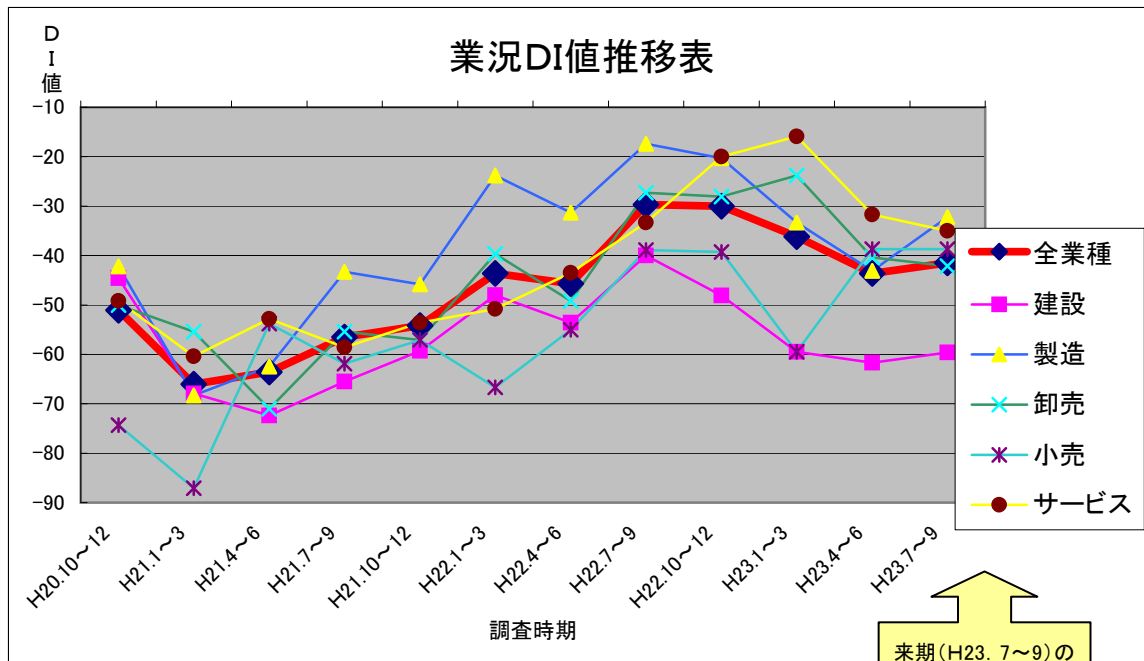
来期(H23. 7~9)の見通しでは全業種DI値は▲36.4と1.4P好転する見込み。



今期(H23. 4~6)の久留米市地場企業景況調査で「**採算面**」での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「好転した」と回答した企業は28社(前期比5社減)、「悪化した」と回答した企業は129社(前期比2社増)、「横ばいである」と答えた企業は81社(前期比9社減)であった。DI値を見ると、マイナス幅は拡大して▲42.4となり、前期比で4.8P悪化した。

業種別に見ると、建設業▲59.2(前期比6.9P悪化)、製造業▲41.4(前期比10.8P悪化)、卸売業▲37.9(前期比3P悪化)、小売業▲51.6(前期比1.6P悪化)、サービス業▲23.8(前期比1.8P好転)となった。

来期(H23. 7~9)の見通しでは全業種DI値は▲41.3と、8.3P悪化する見込み。

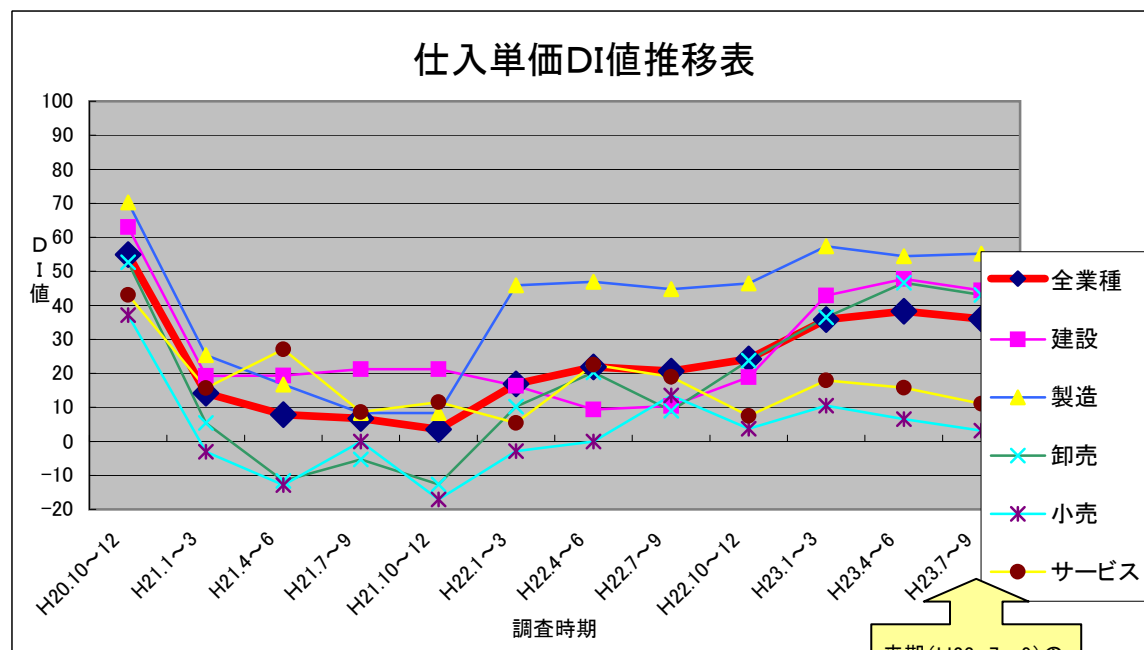


来期(H23. 7~9)の見通し

今期(H23. 4~6)の久留米市地場企業景況調査で「業況面」での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「好転した」と回答した企業は19社(前期比15社減)、「悪化した」と回答した企業は123社(前期比2社減)、「横ばいである」と答えた企業は94社(前期比5社増)であった。DI値を見ると、▲43. 6となり、前期比で7. 4P悪化した。

業種別に見ると、建設業▲61. 7(前期比2. 2P悪化)、製造業▲43. 1(前期比9. 8P悪化)、卸売業▲40. 4(前期比16. 6P悪化)、小売業▲38. 7(前期比20. 8P好転)、サービス業▲31. 7(前期比15. 8P悪化)となった。

来期(H23. 7~9)の見通しでは全業種DI値は▲41. 5と、8. 3P好転する見込み。

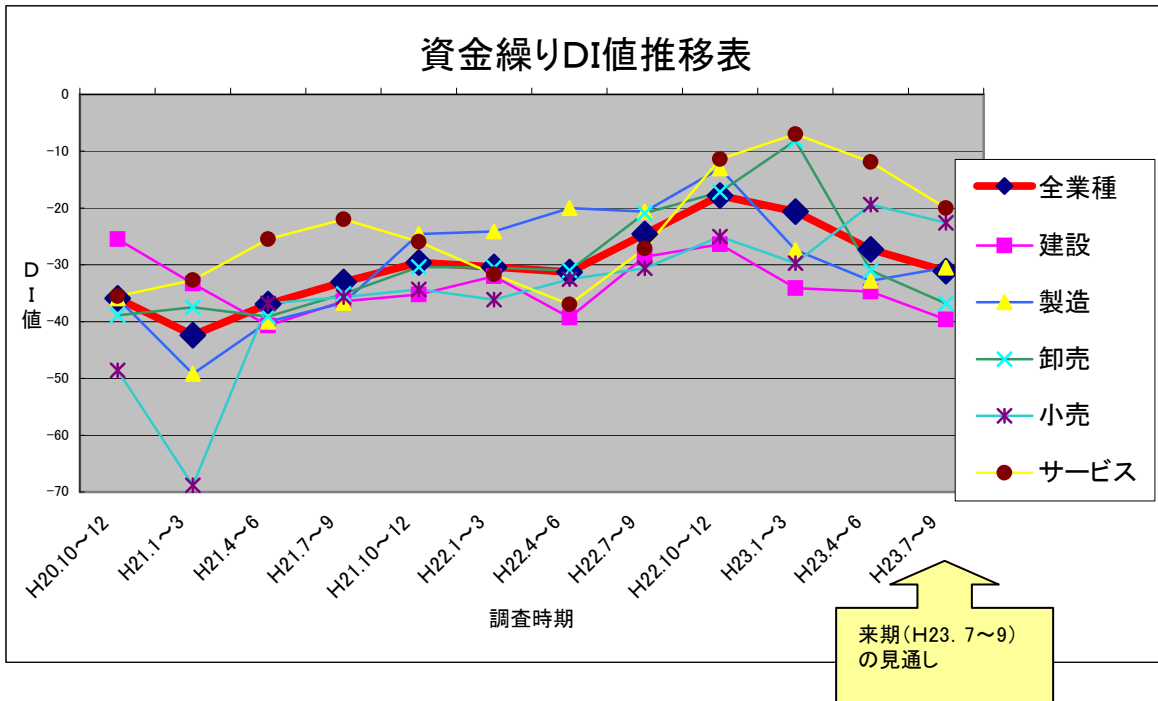


来期(H23. 7~9)の見通し

今期(H23. 4~6)の久留米市地場企業景況調査で「仕入単価面」での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「上昇した」と回答した企業は107社(前期比26社増)、「低下した」と回答した企業は19社(前期比5社減)、「横ばいである」と答えた企業は104社(前期比4社減)であった。DI値を見ると、38. 3となり、前期比で2. 5P悪化した。

業種別に見ると、建設業47. 8(前期比4. 9P悪化)、製造業54. 4(前期比3. 0P好転)、卸売業46. 6(前期比10. 1P悪化)、小売業6. 5(前期比4. 0P悪化)、サービス業15. 8(前期比2. 1P好転)となった。

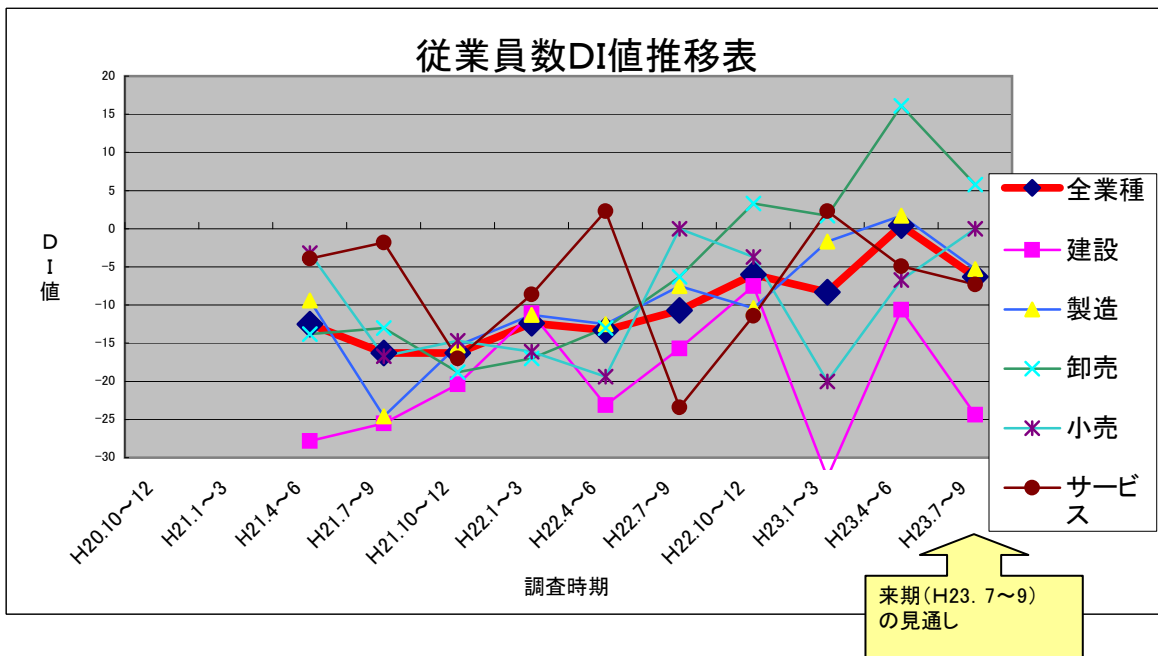
来期(H23. 7~9)の見通しでは全業種DI値は36. 0と、9. 0P好転する見込み。



今期(H23. 4~6)の久留米市地場企業景況調査で「資金繰り面」での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「好転した」と回答した企業は15社(前年比7社減)、「悪化した」と回答した企業は80社(前期比7社増)、「横ばいである」と答えた企業は143社(前期比10社減)であった。DI値を見ると▲27. 3となり、前期比で6. 7P悪化した。

業種別に見ると、建設業▲34. 7(前期比0. 6P悪化)、製造業▲32. 8(前期比5. 4P悪化)、卸売業▲31. 1(前期比23. 0P悪化)、小売業▲19. 4(前期比10. 3P好転)、サービス業▲11. 9(前期比4. 9P悪化)となった。

来期(H23. 7~9)の見通しでは全業種DI値は▲31. 1と、10. 8P悪化する見込み。

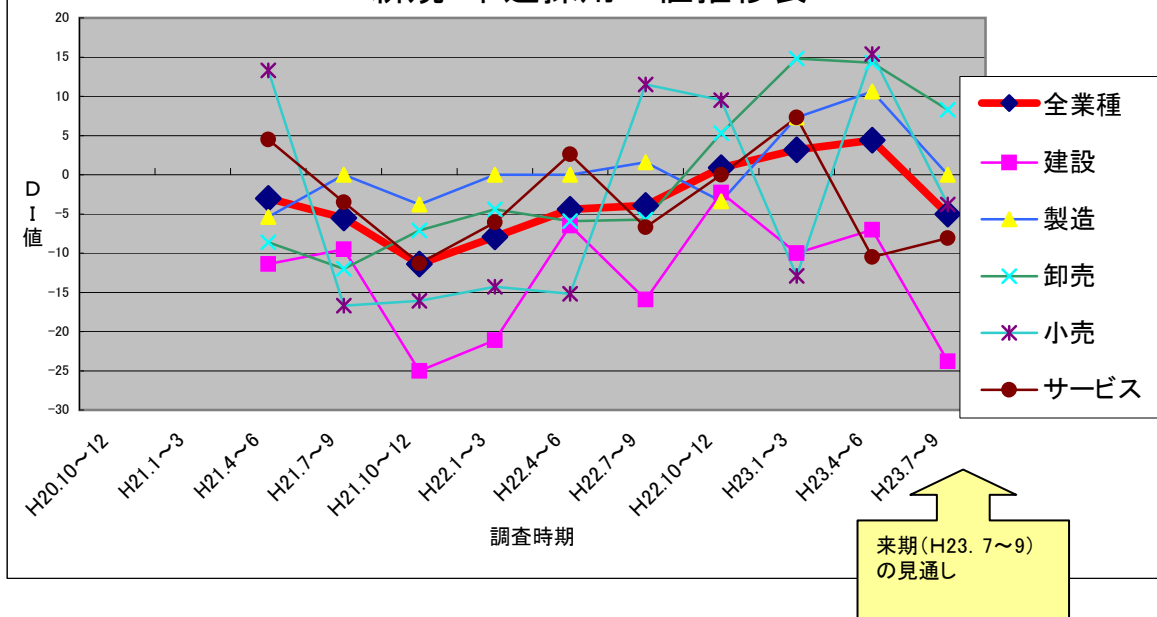


今期(H23. 4~6)の久留米市地場企業景況調査で「従業員数面」での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「増加した」と回答した企業は37社、「減少した」と回答した企業は44社、「横ばいである」と答えた企業は144社であった。DI値は▲0. 4となった。

業種別に見ると、建設業▲10. 6、製造業▲5. 5、卸売業5. 8、小売業▲3. 4、サービス業0. 0となった。

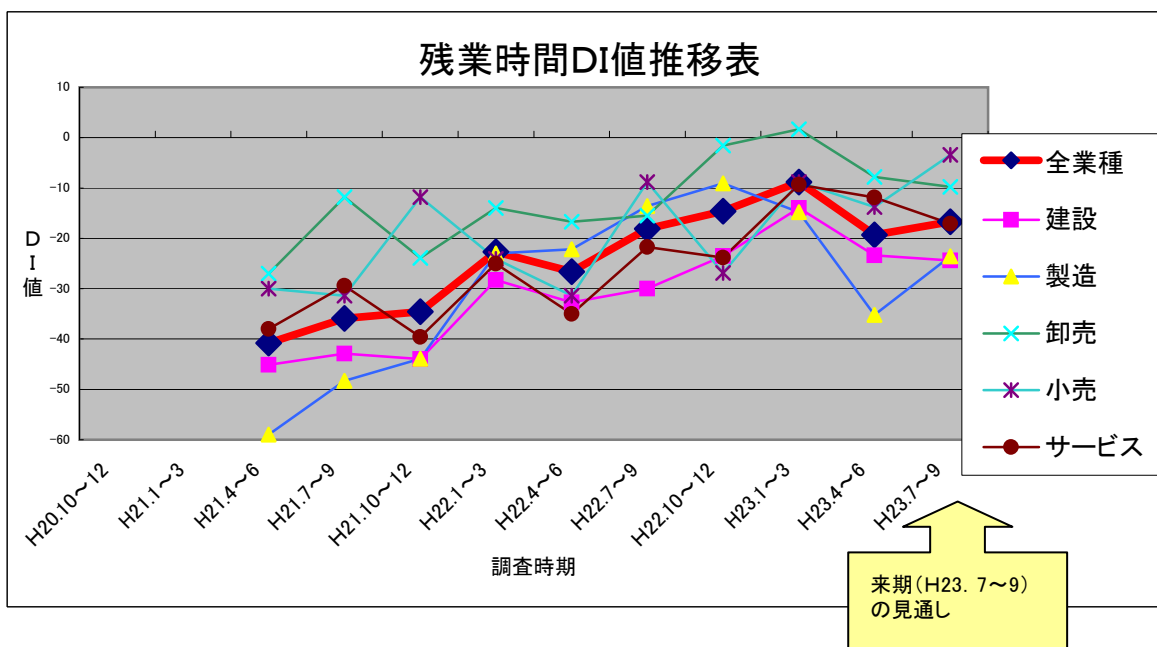
来期(H23. 7~9)の見通しでは、全業種DI値は▲6. 3となる見込み。業種別に見ると、建設業▲24. 4、製造業▲5. 3、卸売業5. 8、小売業0. 0、サービス業▲7. 3となる見込み。

新規・中途採用DI値推移表



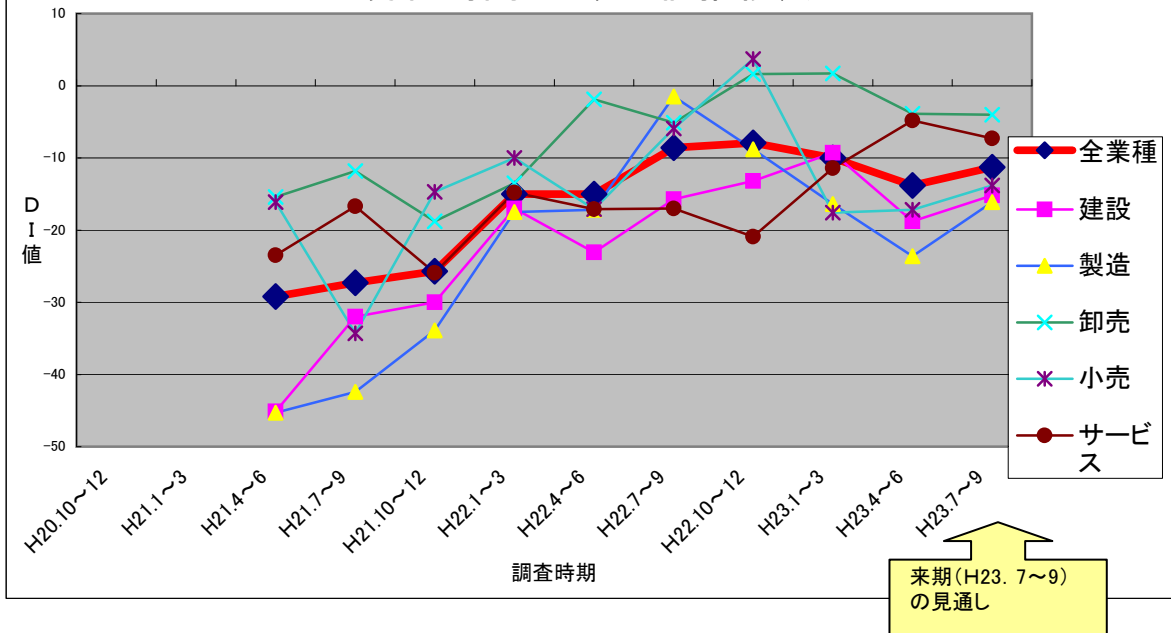
今期(H23. 4~6)の久留米市地場企業景況調査で「新規・中途採用面」での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「増加した」と回答した企業は38社、「減少した」と回答した企業は29社、「横ばいである」と答えた企業は136社であった。DI値は、4. 4となった。
 業種別に見ると、建設業▲7. 0、製造業10. 6、卸売業14. 3、小売業15. 4、サービス業▲10. 5となった。
 来期(H23. 7~9)の見通しでは、全業種DI値は▲5. 0となる見込み。業種別に見ると、建設業▲23. 8、製造業0. 0、卸売業8. 3、小売業▲3. 8、サービス業▲8. 1となる見込み。

残業時間DI値推移表



今期(H23. 4~6)の久留米市地場企業景況調査で「残業時間面」での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「増加した」と回答した企業は16社、「減少した」と回答した企業は59社、「横ばいである」と答えた企業は148社であった。DI値は▲19. 3となった。
 業種別に見ると、建設業▲23. 4、製造業▲35. 2、卸売業▲7. 8、小売業▲13. 8、サービス業▲11. 9となった。
 来期(H23. 7~9)の見通しでは、全業種DI値は▲16. 7となる見込み。業種別に見ると、建設業▲24. 4、製造業▲23. 6、卸売業▲9. 8、小売業▲3. 4、サービス業▲17. 1となる見込み。

労働時間・日数DI値推移表

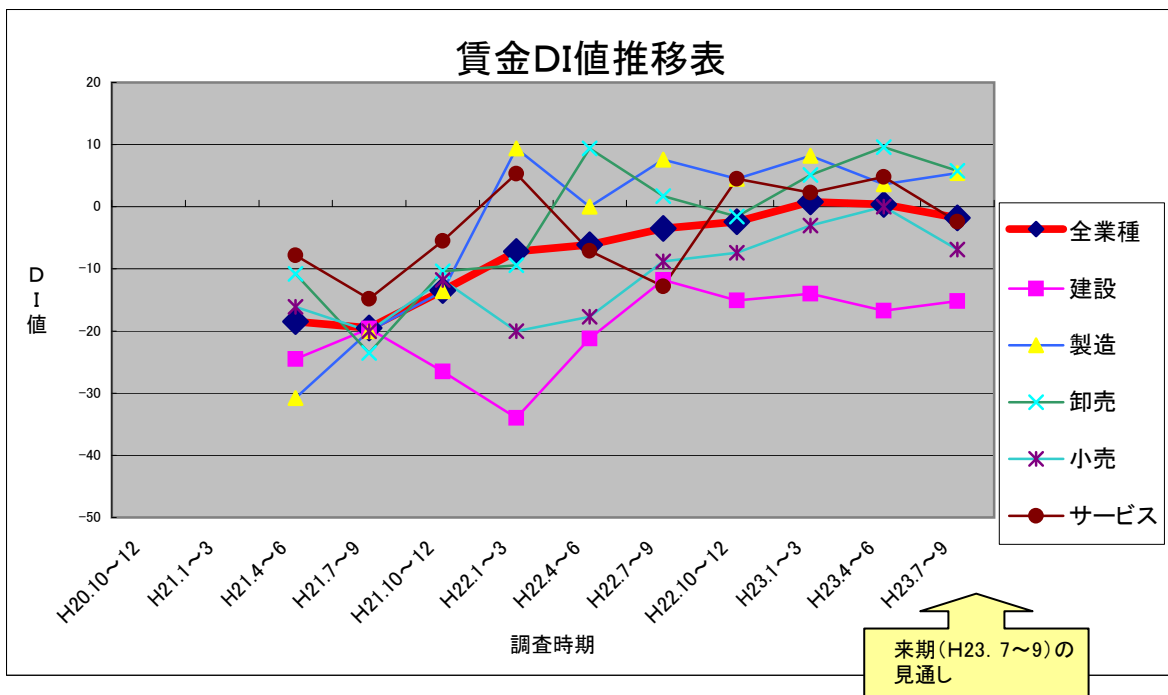


今期(H23. 4~6)の久留米市地場企業景況調査で「労働時間・日数面」での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「増加した」と回答した企業は12社、「減少した」と回答した企業は43社、「横ばいである」と答えた企業は170社であった。DI値は▲13. 8となった。

業種別に見ると、建設業▲18. 8、製造業▲23. 6、卸売業▲4. 0、小売業▲17. 2、サービス業▲4. 8となった。

来期(H23. 7~9)の見通しでは、全業種DI値は▲11. 3となる見込み。業種別に見ると、建設業▲15. 2、製造業▲16. 1、卸売業▲4. 0、小売業▲13. 8、サービス業▲7. 3となる見込み。

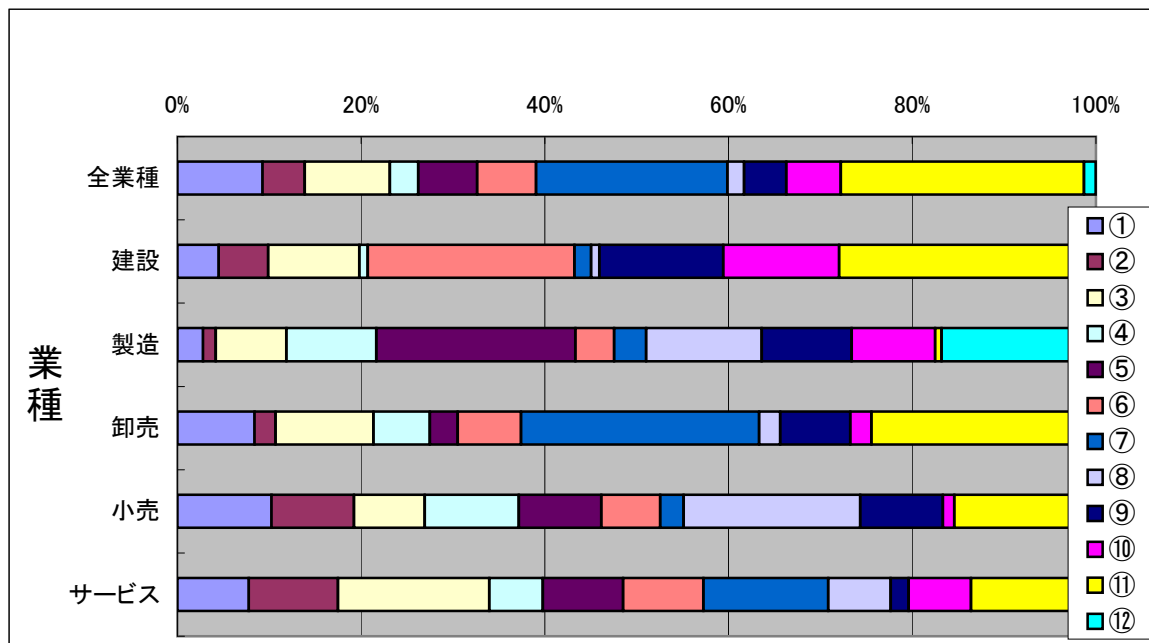
賃金DI値推移表



今期(H23. 4~6)の久留米市地場企業景況調査で「賃金面」での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「増加した」と回答した企業は35社、「減少した」と回答した企業は34社、「横ばいである」と答えた企業は157社であった。DI値は0. 4となった。

業種別のDI値では、建設業▲16. 7、製造業3. 6、卸売業5. 1、小売業0. 0、サービス業4. 8となった。

来期(H23. 7~9)の見通しでは、全業種DI値は▲1. 8となる見込み。業種別に見ると、建設業▲15. 2、製造業5. 4、卸売業6. 8、小売業▲6. 9、サービス業▲2. 4となる見込み。



①大企業の進出による競争の激化 ②同業者の進出 ③消費者ニーズへの対応 ④人件費の増加 ⑤人件費以外の経費の増加 ⑥仕入単価の上昇 ⑦販売価格の低下 ⑧金利負担の増加 ⑨事業資金の借入難 ⑩従業員の確保難 ⑪需要の停滞 ⑫その他
 今期(H22. 4～6)の経営上の悩みとしては、「需要の停滞(24. 9%)」「販売価格の低下・上昇難(20. 0%)」を指摘する声が多く寄せられている。
 特に、「需要の停滞」は建設業(46. 8%)、製造業(25. 0%)、卸売業(35. 6%)、小売業(16. 3%)サービス業(24. 0%)と全業種で意見が集中した。

<事業所から寄せられた主なコメント>

【建設業】

一般競争入札の請負金額が低下しており、経営を圧迫してきている(土木工事業)
 震災後の4月～5月は部材入荷の遅れが目立っていたが、現在は正常化している(一般土木工事業)
 材料の種類によっては品不足が続いている(土木工事業)

【製造業】

設備の更新時期にきているが、新たな設備投資により経営を圧迫する恐れがあるため、躊躇している(他に分類されない製造業)
 震災直後は材料不足等、影響を受けていたが、現在は正常に戻ってきている(その他の電気器具製造業)
 材料が不足し、数ヶ月の入荷待ち状態(その他の電気器具製造業)

【卸売業】

需要の低迷で原価削減に取り組んでおり、海外(東南アジア)取引を見直している(他に分類されない卸売業)
 震災直後は部材、商品等の入荷が遅れていたが現在では正常に戻りつつある(鉱物・金属材料卸売業)
 大手製造メーカーの生産が減少したことにより、売上が減少した(他に分類されない卸売業)

【小売業】

他店にない商品を販売することで、価格競争を回避するよう経営努力している(自動車小売業)
 商品の入荷状況は正常に回復しているが、消費者の買い控えムードは変わらない(他に分類されない小売業)
 ファッションに対する需要の低下が見られ、震災後は消費の自粛が強く感じられる(婦人・子供服小売業)

【サービス業】

来店頻度が月に1度から2ヶ月に1度と来店サイクルが長くなっている(理容業)
 燃料の高騰が経営を圧迫している(一般貨物自動車運送業)
 魚貝類(特に海藻類)の仕入が困難で、値段が高騰しており経営を圧迫している(飲食店、宿泊業)